

令和6年度第1回釜石市立図書館協議会の開催結果

- 1 **開催日時** 令和6年5月29日（水）午後2時から午後3時まで
- 2 **場 所** 釜石市立図書館 2階視聴覚室
- 3 **出席委員** 7人
野田摩理子委員、藤原由香里委員、万城目千佳代委員、足立佐智子委員、村上修委員、鈴木崇委員、細田多聞委員
- 4 **欠席委員** 柴田渥委員、市川淳子委員
- 5 **事務局** 4人
平野敏也市民生活部長、佐藤貴之まちづくり課長、川畑広恵図書館長、遠野英希館長補佐
- 6 **傍聴者** 1人
- 7 **経過と結果**

(1) 開会

館長が開会し、委員9人中7人が出席し、当協議会運営規則第4条第2項の規定により本会議が成立していることを報告

(2) 市民生活部長挨拶

（平野市民生活部長）

いつも大変お世話になっております。新緑の季節を迎え、自然の美しさを一層鮮やかに感じられる今日この頃、運動会も無事終わったようで、20度ぐらいの気温だったということ、あまり暑くなくて良かったと思っております。ただ、釜石にも近年、熊が出没しております、今日も私の家の近所に出たという放送があつて、ちょっと怖いなと思つてるところです。さて、冒頭に少しだけお話をさせていただきたいのですが、図書館を含む我々釜石市の組織全体において、今職員数を減らす傾向にございます。同じくらいの人口規模の市町村と比較しても、当市の職員数はちょっと多い状況にあります。これはかつて、人口9万人を支えるために設置された多くの部署を現在の人口に合わせて適切に集約できなかったことがあると思っております。また震災以降、多様な業務が増え続けまして、その影響も大きいと感じているところでございます。この図書館におきましても、例外ではなくて、職員数の減少や予算の制約など、運営において厳しい状況もございます。そのため、限られたリソースを最大限に活用し、効率的かつ効果的なサービスを提供できるよう職員の方でも頑張つて参ります。また、市民の皆様、今日いらっしゃつた皆様の協力が必要不可欠だと思っております。引き続きご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げます。結びに、図書館協議会の皆様には、常日頃から図書館の活動に対するご支援とご助言をいただき感謝申し上げます。今後とも皆様の貴重なご意見を拝聴しながら、地域に根差した図書館運営を進めてまいりたいと思つたしますので、何卒宜しくお願い致します。

(3) 委員長挨拶

藤原です。図書館の事業である「朗読奉仕・ハマナスの会」というものがございまして、そこで活動しております。若輩者ですが皆様のサポートでやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

6. 議事

(1) 令和6年度釜石市立図書館運営方針と事業計画について

質問なし。承認された。

(2) 令和5年度釜石市立図書館蔵書数等の報告について

質問なし。承認された。

(3) 令和6年度釜石市立図書館資料収集方針について

質問者（委員）

（開館日が）2日増えたのはどこが増えたんですか。

回答（館長補佐）

どこがどう増えたかという、なかなか説明しづらいのですが、大きな特徴としては、今年度は国民の祝日が土日にあたりまして、図書館としては本来、国民の祝日は休館日になるのですが、土日にあたった時は図書館をなるべく開けようと考えております。したがって昨年度より、国民の祝日の開館日が若干多くなっておりますので、それで開館日が若干多いという形になっております。国民の祝日が土日にあたらないような日は、普通に休館日にしていたり、あと月末が土日にあたらない日は、館内整理日にさせていただきます。以上です。

質問者（委員）

ありがとうございます。では、みんなが休む時に図書館は働いているということですね。ありがとうございます。

(4) その他

新任の細田多聞委員から挨拶があった。

（委員）

4月に菊池校長に代わりまして、着任しました甲子小学校校長の細田多聞と申します。どうぞよろしくお願い致します。こういう協議会の方には初めての参加ということで、何かお役に立てればいいのかと思ってここに来させていただきました。学校の図書もそうですけども、なかなか小学生が今全国的に読書離れというか、本離れが進んでいるということ、ひしひしと感じているところなんですけども、基本的にこちらの様々な企画等で子どもたちがこちらに足を運ぶ機会が増えて、学校図書館の方の利用

も増えたらいいのかなと思っておりますので、刺激的な企画をお願いできればと思います。実際のところ、釜石市内の小学校長ということで、望ましい状況なのかどうか、その辺り教えていただければ、それで、またこの企画が良かったですよとか、教えていただければ、学校の方でも校長の繋がりということで、情報提供ができるのかなと思いますので、よろしく申し上げます。

(館長)

ありがとうございます。前任の菊池先生に続きまして、現場の小学校の校長先生に委員を引き受けていただけるという、野田摩理子委員もそうですし、現場からの声を頂いて本当にありがたいなと思っている次第です。具体的に申しますと、まず資料No.1の9頁にございますけれども、6の「図書館こともまつり」というのがございまして、年間100冊以上本を読んでもらった幼児、児童を表彰してございます。100冊以上本を読んだお子さんは36人いらっしゃいまして、最多の子は年間248冊絵本や児童書を読んでいるということで、全く図書館に接する機会がなくて本を読まないお子さんとの差異はあるかと思えます。多読賞のお子さんは図書館が小佐野町にあるという立地上、地元の小学校の児童ですとか、あとはルーティーンとして2週間に1回図書館に来るということが、小さいお子さんでも身につけているように感じます。それから後ろの方にいきまして、11頁の「図書館施設見学受入れ」ですが、年齢的には小学2年生でちょっと小さいのですが、図書館の普段見られない郷土資料室ですとか、バックヤードの閉架書庫など、こちらを見ることによって、本の量に驚いていただいたり、郷土愛の醸成につながったりという面ではすごく本に対しても、図書館に対しても親しみを持ってもらっているように私たちは感じております。見学に来ているのは小学2年生ですし、職場体験は中学2年生で、かなり限定的ではあるのですが、学校に帰ってから「図書館楽しかったよ」という話をさせていただくことによって、本と接する機会が増えればすごく広がりを見せるのではないかなと思っております。またさきほど、去年までは冊数を明示してございましたが、13頁の12「団体貸出」については、こちらの方も学年ごとに箱に20冊の本を入れまして、図書館職員が学年に合った本を選書させて頂きまして、児童向け、および先生向けにも1箱お入れしていますので、そういった意味では学校図書館にある本だけでなく、いろいろ新鮮な本が届いて、本の楽しさに気付いていただければと思っております。朝読書にこちらの団体貸出の本を利用している学校もあると伺っておりますので、連携を取りながら今後もやっていければと思っております。ありがとうございます。

(委員長)

ありがとうございました。

(まちづくり課長)

事前にお配りいたしました、「立正大学のデリバリーカレッジ」ですが、今週の1日から来週、再来週と3週にわたって大学の講師の先生をお迎えして、大学で受ける授業というも

のを身近で受けていただきたいというのもあって開催しております。毎年やっておりますけれども、昨年ぐらいまではちょっと参加しにくい、なかなか難しいお題がありまして、これについて昨年度終わってからみんなで協議して、何百というメニューがある中から、なるべく一般市民の方達が聞いたり見たりしても楽しく講座を受けれるようなもの、ということで今回この3つのテーマを選びました。1回目の「アンチエイジングを目指す生き方とスポーツ」という山西先生については、大学時代箱根を2回ほど走っている先生で、当日、コロナ化もあったということで本来ずっと遠隔でやっていたのですが、今回1回目のテーマについては先生がこちらの方に来ていただいて、例えば歩き方とか、健康になるための運動とかを講義の中に盛り込んで、楽しくできる講座になっております。一応、定員20人となっておりますけれども、1回目は20人を超えるような勢いでおります。ただ20人以上でも、50人ぐらい入れる施設なので、ぜひ皆さんにも来ていただきたい。「アンチエイジング」については結構興味のある方が多くてお電話いただいたり、お申込みいただいたりしているような状況です。2回目は「誕生石のサイエンス」ということで、「鉱物」というとなかなか難しいですが、誕生石についての講義が行われるようで、女性の方からのお申し込みが多くありまして、だいたい15、16人ぐらいのお申し込みがございます。あと、3回目は「織田信長」というテーマですけれども、実はこのテーマ、歴史物で、「明智光秀」、「鎌倉殿」という三つのお題がありまして、その中でもやっぱり「織田信長」というのが一番ネームバリューとしては皆さんに知られているだろうと。織田信長の性格とかそういうものではなくて、今織田信長がいたら防災はどういうふうにしていたのだろうとか、そういう視点に立って、講義をやるようで、これもまた楽しそうな講座になるようです。全部出なければならぬわけではなくて、1回目だけの参加でも全然OKですので、広く皆さんに聞いていただければと思っております。当日突然来ても構いませんので、是非周りの方たちとお誘いあわせの上、中妻応援センターと言いまして、復興住宅の1階にあるところで、駐車場も川の方にかんりの台数を確保できることになっておりますので、是非皆さんよろしくお願ひ致します。以上です。

(委員)

参考までに、立正大学とはどういう関係でこういうことができているのですか。

(まちづくり課長)

復興支援といいますか、釜石だけではなくいろいろな自治体と連携しながらということ、協定は結んでいないのですが、こういう講座がありますというお話を受けて、釜石市がそれに乗ったという感じです。

(市民生活部長)

一番最初はラグビーです。堀越という選手がいて、その選手と職員が知り合いで、何かやりたいねというところから始まったことです。釜石は、全体を博物館に見立てて「オープンフィールドミュージアム」という形で、いろいろなことをやっているのですが、学生が来るというところで前市長が、「オープンフィールドカレッジ」ということで、今釜石に学生が

来ています。今釜石に大学がないので、そういう中でどういったことをやっていくのかというところで、立正大学は、生涯学習と前々から繋がりを持って授業をやっています。また一方で、今も来ているのですが、文京学院大学というところでは釜石で授業をやることで、単位を取れるというような仕組みを作っておりまして、まもなく浜町に完成するスタジアクション施設は企業にご寄付いただいた施設で、そういった活動の中心になっていくんだと思いますが、この立正大学はきっかけはラグビー、その後は震災もあって、というところ
です。去年ですね、まちづくり課長が直接立正大学に行って、学長さんと話をしてこの内容についてはだいぶ揉んで来ているので、皆さんの意見を聞きながら、まず皆さんが何に興味を持っているのかが非常に重要で、そのような意見を聞きながらやっておりますので、面白いものだと思います。それで、やっぱり WEB だと臨場感がないんです。それで今回は、1 回目の先生が来ていただくのでそういったところも確認しながら、臨場感を出したいということであれば、来年以降もまた先生に来ていただくとかもいろいろ考えていきますので、是非お誘いあわせの上よろしくお願い致します。